

12.3 ICD-10 (2013年) 準拠版の概要

12.3.1 主な改正点：ICD-10 (2013年版)

1 WHO 勧告に基づく改正

(1) 疾病概念の確立や変更等に伴う項目の新設

- ア ポリオ後症候群 (G14)：灰白髄炎<ポリオ>の続発・後遺症 (B91)とは別概念と整理し、項目を新設
- イ ヒト・メタニューモウイルス：従来 ICD 上は特定の分類が設けられていなかったが、2001年に本ウイルスが発見されたことに伴い、「J12.3 ヒト・メタニューモウイルス肺炎」及び「J21.1 ヒト・メタニューモウイルスによる急性細気管支炎」を新設

(2) 病期別分類等の導入に伴う項目の細分化

- ア 白血病、リンパ腫 (C81-C96)：疾病概念を整理し、定義を明確化するとともに、グレード等を区分して細分化
- イ 両眼性及び単眼性視覚障害 (盲を含む) (H54)：国際眼科学会理事会決議や WHO 勧告に基づく重症度の分類に従い、細分項目を整理
- ウ じょく<褥>瘡性潰瘍及び圧迫領域 (L89)：病期別分類を導入し細分化
- エ 腎不全 (N17-N19)：急性腎不全と慢性腎臓病の概念整理を行い、後者について病期別分類を導入

(3) 原因別分類等の導入に伴う項目の細分化

- ア 腹壁ヘルニア (K43)：腹壁ヘルニアを「癒痕ヘルニア」、「傍ストーマヘルニア」、「その他及び詳細不明の腹壁ヘルニア」に細分化
- イ 急性膵炎 (K85)：特発性、胆石性、アルコール性等、原因による細分を導入
- ウ 産科的死亡 (O60、O96、O97)：陣痛前後等の分類や原因別の細分を導入
- エ 地震による受傷者 (X34)：地殻変動、津波など原因をより細分化
- オ 薬剤耐性の病原体 (U80-U85)：耐性を示す薬剤をベータラクタム系とその他の抗生物質、抗菌薬、抗腫瘍薬に整理し、より詳細に細分化

(4) 臨床での活用に対応した名称の変更

- ア 西ナイル熱→西ナイルウイルス感染症 (A92.3)
- イ インスリン依存性糖尿病<IDDM>→1型<インスリン依存性>糖尿病<IDDM> (E10)
- ウ インスリン非依存性糖尿病<NIDDM>→2型<インスリン非依存

性>糖尿病<NIDDM> (E11)

エ イートン・ランバート<Eaton-Lambert>症候群 (C80) →ランバート・イートン<Lambert-Eaton>症候群 (C00-D48) (G73.1)

オ ディスペプシア (症) →機能性ディスペプシア (K30) (ただし、症状としてのディスペプシアは「第XVIII章 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの (R00-R99)」に分類される)

(5) 統計上の必要性から新設

ア 敗血症性ショック (R57.2) : 原死因選択において敗血症 (A41.9) と区別する必要性からコードを新設したもの

イ エマージェンシーコード (U06-U07) : エマージェンシーコードはWHOにより原因不明の新しい疾患に暫定的に使用され、新たに発生または認識された疾患があった場合、分類に困るので暫定的にこのコードを使用する (※2002年重症急性呼吸器症候群 (SARS) が発生した際には、U04がSARSのコードとして割り当てられた)

2 日本医学会が定める用語に基づく用語適正化等

ア 「レンサ球菌」→「連鎖球菌」

例：レンサ球菌性敗血症→連鎖球菌性敗血症 (A40)

イ カリニ肺炎を起こした HIV 病→ニューモシスチス・イロベチイ肺炎を起こした HIV 病 (B20.6)

ウ 「新生物」→「新生物<腫瘍>」

例：口唇の悪性新生物→口唇の悪性新生物<腫瘍> (C00)

エ 「ウイルス」→「ウイルス性」(例：ウイルス性肝炎)

オ その他、「たんぱく」→「タンパク」(例：リポタンパク欠乏症)、「靱」→「靱」(例：靱帯の障害) 他多数